



# 戸田ヶ原 リポート

6月から8月の戸田ヶ原の様子や活動を報告します



戸田ヶ原サクラソウ園のオオヨシキリ

## 戸田ヶ原サクラソウ園

外来植物オオブタクサの抜き取りや、園路に張り出したオギの管理（オギしばり）、トンボなどのための池のヨシ刈りなどを行いました。6月には10名の「戸田ヶ原サポーター」の皆さんに参加をしていただきました。



外来植物などの抜き取り



## 戸田ヶ原野草園

6月と7月に、外来植物の抜き取りを行いました。夏に葉っぱが白くなる、ハンゲショウの生育が特に良く、大きなまとまりになっています。



ハンゲショウの群落

7/20

## 戸田ヶ原自然再生推進連絡会議を開催しました

戸田ヶ原自然再生では年に2回、学識者、市民団体、学校、企業、行政等による会議を開催して、取り組みの進め方や課題などについて、意見交換を行っています。

新型コロナウイルス感染症のために、書面での会議が続きましたが、約2年半ぶりに対面での会議が開催されました。戸田ヶ原サクラソウ園での自然再生の成果や、生息が懸念される外来生物への対応などについて意見交換を行いました。





戸田ヶ原をより深く知っていただくために、昔の様子を紹介します。

## 植物学者の見た戸田ヶ原

来年のNHK連続テレビ小説は、植物学の父、牧野富太郎博士がモデルです。明治維新後には牧野博士をはじめとする多くの植物学者が戸田ヶ原を訪れました。学会誌には植物学者の見た戸田ヶ原のようすが残されています。

明治38年 植物学雑誌 19 (220)  
戸田ノ原ヲ訪フ 中井猛之進

～大学植物研究者8名による戸田ヶ原来訪記～

(略) 川に沿って上がり、しばらくして原に出たり。たちまち目に入るはノウルシとサクラソウにして、空漠たる野原目を遮るものは黄色なるノウルシ、この間を綴りて赤色のサクラソウあり、遠くを望めば丈高きノウルシのみ目に入りて、あたかも菜種の花かと疑われ、遙かに春霞と打ち交じりたるさま、絵にも及ばず言葉にも及ばず。由来戸田ヶ原は、桜草の産地として広く都人士の知る所にして、今日しもこれ好日晴れをあて込みて摘草せんとして来たり士女の幾群彼方此方とさまよえるは、春日嵯峨野の春に装いをこらせし平安朝の昔も俣ばれてゆかし。(略)

## 戸田ヶ原サポーターの活動予定 (9月)

### 戸田ヶ原サクラソウ園

9月20日(火) 10時～12時頃

内容：外来植物の抜き取り、園路沿いのオギの管理など

### 戸田ヶ原野草園

9月27日(火) 10時～12時頃

内容：野草まわりの草刈り

■参加希望・お問い合わせは(公財)戸田市水と緑の公社まで  
新型コロナウイルス感染症の状況や天候により、中止・日程変更になる場合があります。



戸田ヶ原  
サクラソウ園  
・  
戸田ヶ原野草園  
アクセス

戸田ヶ原自然再生 News Letter vol.62 2022年9月  
発行：戸田市みどり公園課 tel.048-441-1800 内線319  
(公財)戸田市水と緑の公社 tel.048-449-1550

# 戸田ヶ原 生きもの通信

## 戸田ヶ原サクラソウ園で「カヤネズミ」の巣を初めて確認！

カヤネズミは、体重約7グラムの世界最小クラスのネズミの仲間です。主にイネ科植物の種子や昆虫などを食べています。オギやススキなどの草地に生息し、草で編んだ球巣をつくって繁殖します。

戸田ヶ原自然再生事業ではカヤネズミを、サクラソウ、カワセミ、キツネなどとともにシンボルとして取り組みを行ってきました。

近年、彩湖周辺でカヤネズミの生息・繁殖に適したオギの草地は、外来植物やツル植物の繁茂などによって減少しています。良好なオギの草地の保全は、長年の戸田ヶ原サポーターの皆さんの外来植物抜きなどの努力が実を結んだものです。

カヤネズミは、人が巣に触れると匂いだけでも育児を放棄してしまうほど敏感な生きものです。巣を探したりはせず、そっと見守ってください(事務局ではカヤネズミへの影響が少ない時期に、生息調査や管理を行う予定です。)



カヤネズミの巣



長年の管理の成果です！



カヤネズミ(資料)



新型コロナウイルス感染拡大防止のため、彩湖・道満グリーンパークに来園の際は体調管理、マスクの着用、手洗い、ソーシャルディスタンス(2m)にご協力ください。

JR埼京線またはJR武蔵野線  
武蔵浦和駅より「下笹目 行」バス乗車  
「彩湖・道満グリーンパーク入口」  
下車徒歩13分

JR埼京線 北戸田駅より  
tocoバス美笹循環乗車  
「道満」下車徒歩12分



戸田ヶ原自然再生キャラクター  
とだみちゃん